

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス 山形コロニー シード天童たかだま		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 12 月 15 日		～ 令和 8 年 1 月 16 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	令和 7 年 12 月 15 日		～ 令和 8 年 1 月 16 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 1 月 27 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・朝のミーティングで一日の予定表を作成し、夕方のミーティングで振返りを行う。打合せの時間がしっかり取れている。	・その日に利用される児童に合わせた支援内容を検討している。 ・当日の役割分担、送迎担当について全体の動きがわかるようになっている。	・利用児童の個々の現状の確認と、活動中の気づき等の情報を共有している。 ・誰が見ても支援担当と送迎の動きが分かるように管理している。
2	・年間の支援プログラムを作成している。	・一年を通して、月ごとの支援プログラムを作成している。 ・学年や発達段階に分けて支援プログラムを作成している。	・同じ活動でも、利用児の成長に応じた活動内容になっている。
3	・地域と連携ができています。	・事業所で主催する行事等に招待している。(防災訓練、芋煮会、販売体験等)	・天童事業部として地域交流芋煮会を開催し、地域の方に参加していただき交流を図った。 ・児童が行うパンの販売に、お客様として来ていただいている。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所を2か所から1か所に変更したため、備品等でスペースが狭くなっている。利用児一人当たりの設備基準は満たしているが、体を動かす活動が思いっきりできない。	昨年まで2拠点で活動していたが、一つの事業所を閉めたため、その器具備品が置いてありスペースが取れない。	・備品を処分し、整理していく。 ・狭いスペースでも、身体を動かす運動を工夫する。 ・机に座り、正しい姿勢で集中できる活動を取り入れていく。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	放課後等デイサービス 山形コロニー シード天童たかだま
------	--------------------------------

公表日 令和 8 年 2 月 2 日

利用児童数 21名

回収数 20名

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	3			・十分とは言えないが工夫してくださっている。	ご意見ありがとうございました。 十分なスペースはありませんが、定員を10名に変更したことで、活動スペースは確保されています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	17	3				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	18	1		1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	18	2				
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18	2				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18	2				
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18	2				
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18	2				
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	18	2				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	2				
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	10	6	1	3	・特に求めていません。	ご意見ありがとうございました。 利用している中高生の児童は、地域の子供と交流する機会は少ないと思います。 小学生の児童は、併用して児童クラブを利用している児童もいるため、連携はとれています。
保護者への説明	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18	2				
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18	2				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	16	2	1	1		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	18	2				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	2			・ちょっとした悩みや相談も聞いてアドバイスしてくれる。 本当にありがとうございます。	ご意見ありがとうございました。 これからも保護者の方との関わりを大切にしながら、子供たちの成長を支えていきたいと思っています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18	2				

等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	17	3				
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	2				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	18	2				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	18	2				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18	2				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17	2		1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17	2		1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18	2				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18	2				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	17	3				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	15	5			・放デイはきちんとしなくてはいけないと本人が思っているので、時々行きたくないということもあります。	ご意見ありがとうございました。子供たちの成長を促進するために、活動は明確なねらいを設定しています。ねらいの設定において、子供自身の意見や感情を取り入れることも大切なことと考え、子供たちと話し合い、常に子供たちの変化に対応して参ります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	18	2				

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス 山形コロニー シード天童たかだま		公表日	令和 8 年 2 月 2 日
	チェック項目	評価	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○	・令和7年8月1日より、従たる事業所を閉め、10名定員に変更したことで、児童の活動スペースが確保され、個々の児童に適した活動ができるようになっていきます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○	・人員配置は基準に沿って適切に配置しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	△	・玄関の階段を一部修繕し、スロープを設置しております。使い勝手が良いとは言えませんが、施設内の段差は、合理的配慮を持って安全な体制を整えています。 ・今日一日の活動が分かるようにホワイトボードで予定確認を行い、目で見てわかるスケジュールを明確にしています。	・従たる事業所を閉鎖したことで、使用していた備品が置いてあるため、空間が狭く感じられるが、一人ひとりが机と椅子で活動できるため、集中して活動に取り組むことができる。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○	・毎日の活動が気持ちよい空間で過ごせるよう、また感染症予防の対策のためにも定期的に換気をし、活動前後は清掃・消毒を行い、安心して利用できる清潔な環境作りを行っています。活動に合わせて、机の配置や環境を設定しています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○	・個別活動は部屋を分けて活動に取り組めるようにしています。多目室の一角を仕切り、集中できるスペースも作っています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○	・児童主体の支援を進めることができるように、PDCAサイクルの機能を生かし、サービスや支援内容を継続的に改善し実践しています。計画に沿った支援ができるよう、支援開始前と終了後にスタッフミーティングを実施し、情報の共有を図っています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○	・保護者向けアンケート結果の評価・ご意見を参考にしながら、より良いサービスに努めます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○	・月に一度、月例会議を行い、支援についての意見や、業務内容について話し合える機会を設けています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○	・第三者の指導等を活かし、適切な業務管理と法令遵守に努めています。 ・法人全体でより良い事業運営のために、内部監査を実施しています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○	・研修計画に基づくOJT、OFFJT等の必要な研修機会を確保しています。放課後等デイサービスは、児童や家族が安心して通い続けられるよう、職員の資質、能力の向上に努めています。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○	・年間を通じて、学年や発達段階に分けてシード天童たかだまの支援プログラムを作成しています。支援プログラムは公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○	・保護者や児童と対話し、本人のストレングスを的確に評価しニーズの把握をしています。学校や関係機関との連携により、利用されている方の課題を整理し目標を立てています。どのような支援があれば達成できるかを分析し、一人ひとりに応じた計画を作成しています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○	・計画を共有し、目的を持った活動を企画し提供しています。児童一人ひとりのニーズに対応した支援を行うために、職員間で個別のケースを検討し、職員が共通認識をもって一貫したサービスの提供ができるように支援を行っています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○	・目的や目標を職員間で共有し、支援の方向性を定め、一貫性を持って支援を行っています。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	・児童の状況を把握し、ニーズを導き出すために、児童や保護者の希望や意見を十分に聞き、丁寧に課題を整理しています。利用開始時のアセスメントは標準化されたツールを使用しております。また、小学校の児童は遠城寺式乳幼児分析的発達検査表などを用いて日々の活動の中で、アセスメントを行い、中高生の児童は、就職や進学に向けて進路を決定していく時であるため、就労準備性チェックシートなどを利用し、より効果的な支援の強化を目指しています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	・5つの領域を意識しつつ、児童の視点に立った目標設定や支援内容の検討を行っています。自立訓練と自分らしく生きるための生活力を身に付け、様々な場面で適切に行動できるように、経験と機会を提供しています。また、地域の方々などと楽しく関わったり、公共の施設を利用したりする機会を設けています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	・全職員が、目的や支援方針等について共通理解を深め、プログラムを作成しています。 ・個々の課題や発達段階に応じ、活動プログラムを日々工夫しながら設定しています。 ・将来を見据え、生活スキルを高める機会や、社会性やコミュニケーション能力を広げる経験を提供し、チャレンジできたことを認め、確認していきます。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	・一年間の活動プログラムは、全職員で検討し、毎年工夫し作成しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	・児童の現状や課題を整理し、個別活動やグループ活動、全体活動を組み合わせ、目的をもって計画を作成し、支援を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	・一日ごとの支援予定表を作成しています。当日の役割分担、支援内容、送迎ルート、時間設定を確認し作成しています。また、打合せの中で個々の近況も確認しています。誰が見ても動きがわかるように管理しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	・支援終了後は、支援者間で振り返りを行い、当日の活動状況の中での気づき、情報の共有、課題等の話し合いをしています。意見交換をすることで、より良い対応と支援者が同じ方向を見て支援することができます。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	△	・記録は、第三者が見た時にも様子が把握できるよう意識しながら記録しています。児童一人ひとりの変化や状態を把握していくとともに、支援者自身が支援内容を振り返り、さらなる支援スキルの向上にも繋げるようにしています。 ・児童の記録及び情報は適切に管理しています。	・記録は、児童の成長や発達を確認する目安となります。児童一人ひとりの変化や状況をもっと詳しく記載できれば良いと感じています。記録する時間の配分も考えていきたいと思っています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	・6か月以内に一度を基本としつつ、必要に応じ適宜モニタリングを実施しています。支援計画の見直しや目標の再設定など新たなニーズが発生していないか、本人やご家族の意向を確認しながら、適宜計画内容を変更しています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○	・ガイドラインを意識し、活動内容の年間計画を策定しています。自立した生活を送るための日常生活能力と「できた」「わかった」という成功体験を積んで、自分らしく生きるために自己表現力の向上を目指します。社会の中で必要なルール学習を軸に、たくさんの体験の機会を提供できるように努めます。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	・一日の活動の中で、あらかじめ選択肢を2つ用意して、自分で活動を選ぶ時間を設けています。自分で選んだことにより楽しさが感じられるよう工夫しています。また、子供の主体性を大切に言葉かけを行い、「自分是可以る」という自己肯定感を育てていきます。		
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	・主に児童発達支援管理責任者が参加しています。児童発達支援管理責任者に加え、必要に応じて直接処遇職員も参加することがあります。		
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	・事業所だけの関わりでは、児童の生活状況の全体像が分からないため、必要に応じて、支援機関と連携し、支援体制の充実化を図っています。特に児童が日常的に通う学校とは、あらかじめ保護者の同意を得て、児童の心身の状況や生活環境等の共有のための会議を行っています。	・医療機関と直接の連携はありませんが、保護者の依頼により、活動内容等を文書で報告し、医療機関へ保護者を通じてお渡ししています。	

関係機関や保護者との連携	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・年間予定表や月間予定表、時間割表等は保護者経由でいただいております。また、急な変更や時間の変更などは、日常的に保護者の方と予定の確認を行うことで混乱はありません。 ・学校と児童の様子や状況を共有するために、担当者会議を開催し連携を図っています。 ・トラブル等があった際に、連絡先をしっかりと確保できるよう、緊急連絡先の把握も行っています。 	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年8月より、小学4年生からの受入れとなったため、就学前の事業所との情報共有はありませんが、状況を把握するために必要な情報は相談事業所を通じて共有させていただいています。 	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・当法人は、就労支援が主たる事業ですので、将来の就労を見据えた繋がりのある療育を行っています。卒業後に障害福祉サービス事業所を利用する場合は、関係者によるサービス担当者会議を開催し、これまでの支援内容や、児童の得意なところ、苦手なところを把握し情報を提供しています。また、一般就労に繋がった児童に対しても学校や障害者就業・生活支援センターの要請に応じて担当者会議に出席し、事業所での活動や生活状況について情報提供を行っています。 	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	△	<ul style="list-style-type: none"> ・専門機関等の研修には積極的に参加しています。課題や問題意識をもち、必要な時は、専門医から助言をいただけるよう、連携していきたいと考えています。 	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・併用して利用されている児童もいるため連携は取れています。今年度、放課後児童クラブと合同会議が開催され、互いの施設見学も行い交流を図りました。 	
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・天童市の自立支援協議会は、専門部会として相談支援部会が立ち上がっています。児童発達支援・放課後等デイサービス事業所は連絡会として天童市の事業所が集まる機会があります。 	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や学校での取り組みや課題について、「連絡帳」を活用し、保護者の方からお知らせいただいております。相談はできるだけ対面して話を伺うように努めています。 ・児童を迎えに来た保護者に対し、当日の活動内容や取り組みの様子を細かく伝えることで、児童の現状や今後の課題、成長の度合いを確認しあっています。 	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けペアレントトレーニング等の特別な研修会は実施しておりませんが、保護者に支援場面の見学や親子行事等で、児童の特性に合わせた関わりについて学んでいただく機会を設けています。日々の活動報告や保護者との連携の中で、相談があった場合には、児童への関わり方のポイントやアドバイスをお伝えできるようにしています。 		
保護者への	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・利用契約の際に説明しています。運営規定、重要事項説明書等に変更がある場合、随時説明し、同意をいただいております。 	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも6月に1回以上、実施状況の把握を行っています。定期的な評価を通じて、療育的アプローチの見直しを行い、改善の機会を得ます。 	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した計画の内容を説明し、確認いただき必ず保護者にサインにて同意を得ています。 	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達のこと、学校での課題や将来のこと等、希望や不安の相談に応じ、必要な情報提供や助言を行っています。また、進級、進学するうえでの心配事など保護者に寄り添い、助言し支援しています。 	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、兄弟同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・親子行事等の参加の際、保護者同士で交流する機会はありませんが、なお充実を図って行きたいと思います。2月に、保護者懇談会を実施致します。 	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に意見箱を設置しております。苦情受付担当者や苦情解決責任者を配置し、苦情解決委員会の体制を取り、迅速に対応できるようにしています。第三者委員の直接受付の体制も整備し実施しています。保護者には、掲示して周知しています。 	

説明等	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	・4ヶ月に一回、シードだよりを発行しています。山形県コロナ協会ホームページにも記事を更新し、シードの活動の様子をお知らせしています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	・個人情報は、保護規定に沿って安全に管理しています。管理体制を強化するために、職員の教育や意識を高める取り組みを行い、適切に管理していきます。「プライバシーマーク」を取得し、個人情報の取り扱いについて適正に管理されるようコンサルを受けながら、対応しています。 ・年に1度適正に運用がなされているかについて法人内の監査委員によって内部監査が実施されています。今年度も指摘事項はなく適正に運用がなされていました。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	・情報伝達については、個々にあった伝え方を大切にしています。必要に応じて、言葉以外のツールも活用し、情報を伝えられるよう配慮しています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	・地域連携を重視し運営を行っています。今年は天童事業部で地域交流芋煮会を開催し、利用児家族や地域住民の方を招待し一緒に季節の行事を楽しむ機会を設けています。また、児童が行うパンの販売体験に地域の方がお客様として来所され、児童が行う販売活動を見て頂きました。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	・法定訓練として、年2回の避難訓練を行っています。大きな災害があった場合は、近くの小学校や公民館が避難場所となります。職員の誘導で避難は行われます。 ・保護者にマニュアルは配布していませんが、いつでもご覧いただけるように、玄関に設置しています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	・必要なマニュアルについては、法人で策定し、業務上徹底した管理に努めています。なお、事業所独自の緊急時の対応について、明確に提示するように努めています。安全を配慮した訓練も実施しています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○	・利用開始前のアセスメントで、児童の健康面、生活面について状況を確認しています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	・食物アレルギーの有無については、利用開始時に必ず確認しています。対象児は、必要に応じて医師の診断書を提出いただき、提供するおやつなどの成分表を十分に確認し、リスク管理を行っています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	・「安全計画の策定」が義務化され、利用児童の安全を確保するため、研修や訓練は、計画的に年間スケジュールを組んで取り組みを行っています。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	・保護者に対し、安全計画及び事業所等が行う安全に関する取り組みについて、マニュアルを作成し提示しています。ご家族には、シードだよりで周知しています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	・日々のスタッフミーティングにて「ヒヤリ・ハット」を確認しています。支援者間で、リスクを共有し、対応について具体的に検討し改善していきます。リスクによっては、どうしていくかを組織的に吸い上げ改善する仕組みができています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	・年1回は、職員研修の機会をもって、虐待防止の研修を開催しています。日常活動でも、虐待の有無について確認し、指導管理を徹底しています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	・強度行動障害児等、活動する中で安全管理を必要とするケースは、個別支援計画書に、具体的な対応を盛り込み説明し同意を得ています。やむを得ず対応を要する時には、児童の安全確保を一番に考え、支援体制を整えています。 身体拘束は、生命や身体を保護するための緊急やむを得ない場合を除き、行わないことが求められています。利用者の尊厳を保ち、より良い支援を提供し、身体拘束を最小限に抑え、児童が自立した生活を目指せるよう取り組んでいきます。		